

第5分科会 中学校 読書指導 テーマ 「質の高い読書を目指して」

1 はじめに

能美郡市では、「質の高い読書を目指して」を研究主題とし、市内3校の中学校で読書活動に取り組んでいる。本校は、昨年度から「GIGAスクール構想の実現に向けた教員のICT活用指導力強化事業」の県指定を受けており、ICTを活用した教育活動に力を入れている。一方で、今年度から1・2年生を対象に朝読書に取り組むなど、読書活動を通じて生徒のよりよい成長を目指している。読書という行為だけがもたらす、高次の思考の醸成や内面の変容を重視しているからである。

2 実践の概要

(1) 図書委員会による取り組み

①POP作り

一人一枚おすすめの本のPOPを作り、図書室前の掲示板に飾っている。紹介された本は図書室の「図書委員会のおすすめの本コーナー」で展示し、すぐに手に取れるようにした。POPや展示に興味を持つ生徒が多く、よく貸し出されている。

②ビブリオバトル

昨年度、初めて実施した。参加者は全校生徒から募集し、図書委員会は司会や宣伝など、運営にあたった。参加者たちは生き生きとお気に入りの本の魅力を紹介し、ディスカッションも盛り上がった。開催後は紹介された本を集めたコーナーを設置。どの本もよく貸し出されていた。

③朝読書におすすめの本の紹介

一人一台端末を活用した取組。今年度から開始。学年ごとにおすすめの本を選定し、端末で紹介した。朝読書の時間内で読み切れるような短編や、長編では一章分を読んで続きが気になるようなものを選定。端末から一話または一章分を読めるようにし、全校で一斉にその本を読んだ。いつもと違った本を読んでもみたい人が、新たな本に出会うきっかけになった。

能美市立辰口中学校 教諭 戸加里 美香子
(2) 司書との連携

①オリエンテーション

新年度の本の貸出を始める前に、本の貸出方法や図書室でのマナー、本の分類などについて説明をしている。1年生は説明のあと、実際に本を貸出した。

②ブックトーク

1年生を対象に、国語の授業内で読書感想文の課題図書を紹介。クイズや図を取り入れたり、馴染みの薄い言葉や時代背景には解説を入れたりして、生徒が興味を持って話を聞けるようにしている。

③課題研究

本校では全校生徒が各自でテーマを決め、課題研究（調べ学習）を行っている。その際、生徒の調べたいことをもとに、参考資料として利用する本を準備している。学校図書館だけではなく、市立図書館からも本を借り受け、各分野の本をそろえている。

④図書館ホームページ

一人一台端末の導入をきっかけに、ホームページを作成した。新着図書や司書のおすすめの本を紹介し、図書館の使い方や本の分類についても確認できるようにしている。図書日よりでは紹介できる本が限られていたが、スペースの制限がなくなり、すべての新着図書の紹介文と書影を生徒たちに届けられるようになった。また、コロナ対策のため、図書館は学年ごとに分かれて利用するようにしているが、利用日が確認できるカレンダーもHP上に掲載している。

3 今後の課題

生徒は、読書に対して抵抗なく取り組んでいる。しかし、意識や関心の高さについては生徒によってかなり差があり、個人差が大きい。幅広い生徒が興味を持って読書に取り組むことができる、そんな取組を工夫していきたい。